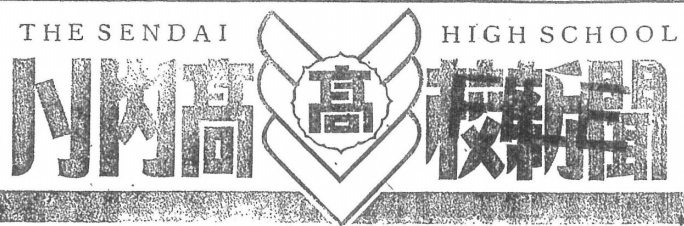


川内高等學校
文藝部
代表者 寺田四郎
日置部伊集院町徳重三五
印刷人 久保吉二
電話二八番



川高新聞によせて (上)

三ツ井 卯之助

新聞の使命は新
しい民主日本の建
設に大きな役割を
もっていることは
今更改めて説くま
でもないが、學校
新聞の使命も亦校
内に於ける民主々
義思想の普及にあ
ることは言を待た
ない。

翻つては日本の現
情を見るに民主々
義の名に於て如何
に多くの非民主々
義的行為が行はれ
て居ることか。甚
だしきに至つては
民主々義の衣を着
たファツシズムを
へ幅を利かせて居
る。自由の名の下
に卑屈な利個主義
やセクショナリス
ムを基礎とする放
縱な行為が横行し
ているではないか
平等の美名に隠

年頭の辭

逆瀬川 助熊

御目出度う御座居ま
す。また新年が来まし
た。年を一つ加へると
いふことは確かに慶賀
すべきことである。何
れにせよ誰でもわけへ
だなく一様に大人に
なるからである。大人
になるということは健
康の増進は勿論だがそ
れにも増して知能の發
達を意味する。少くと
速を意味する。少くと

も今日に至つた事は、
讀者諸志の絶大なる支
持と熱意によるものと
深く感謝する次第であ
る。過去に於ける舊衣
を脱ぎ捨てて世界に對し
戦争放棄を宣言する新
日本の進むべき途は「
武力に非ずして」「文
化」を以て國際的信
用を挽回し世界平和樹
立に邁進すべき重大な
使命を課せられたる
に鑑み新聞のもつ意義
とその役割は再認識す
べき時代に直面したの
である。

第五號刊行に當りて

説

謹しんで新年
のどに定まるか指標
を賀し奉る。四季の移
りは戦災の痛々しき吾
が郷土にも變らず戦後
四回目を春はあとと占
下としてゐるのに占領
下の日本は余りに環
境の急變せる爲にイン
フレとなり道義心は低
下し純朴なりし農村迄
が新思想に幻惑され舊
憲法下に育つた世代の
もの混亂と云ふ迄も
ないが更に新日本を建
設すべき青年層の思想

然らば文化とはそも
何と言ふのであら
う。文化とは人為的平
和的活動の蓄積であつ
て人間の活動によつて
文化を進展せしめそれ
にあつて人生の幸福を
増進するものでなけれ
ばならない。

軍の壓力から解放され
て、批判的精神を培養
回復し以て學校生活へ
の基盤を確立し豊にし
民主國家のよき一員た
らんとして形成された
集ひこそ我々の高校新
聞の眞の姿である。又

愛情こそ平和の姿

川口 雄三郎

人倫と万物とを愛す
ることが出来るもの
とすれば、すべての人
間は本來神を愛するよ
うに出来てゐる。愛の
深いのはそういう本來
の性質が深いからであ
り、この愛情こそ平和
の姿である。元來日本
人は家庭にあつては陸
まじいが、身知らぬ他
人には不愛想である。
然しこの肉親愛を人類
愛にまで及ぼさなけれ
ばならない。

貝原益軒は五常訓に
「天地を父母としてわ
が身は天地の子なり、
天下の民は我と同じく
天地の子なる故に即是
わが兄弟なり」と強調
して、仁、愛をその心
とする天地の子として
の人間相互の、且つ万
物に對する「あわれみ」

「八倫と万物とを愛す
る」これを説教したま
へたが、これを口先きか
この出来ぬ應接間
の裝飾に、氣をくばる
ことが出来たら、これ
が「源氏物語」にいう
「物のまじれ」である。
すべしを詩的に考へて
ゆくときは身常に自由
であらう。なるほど世
間にはわれわれの眼を
曇らせるものが多い。
然しいくら貧乏しても
正義を以て貫ぬきた
い。犯罪が若い一戦
場の経験のない未成年
者になり多しという。敗
戦が若い者を惡の道に
追いこんだが、由來
日本人は一人のときは
おとなしい、淋しい弱
さを樂しむことが出来
る。これによつて、われ
ら「望みなき」であら
ずである。(部長)

雑感

勝部 顯一

新聞であるという強き
責任感と良心的行動
を以て我々は互に啓
發し合ひその内に文學
や眞理を探究する論文
。又幸福を求めるとす
べの話し。花を咲かせ
ての新聞たらしめ明日
の生活の希望に燃える
の新聞の希望に燃える
の新聞に今一層の努力
を必要とする。ロー
マは一日にして成らず
川高新聞が種々の困難
を克服してこそ始めて
報はれる喜びも一層大
きなものになるであら
う。學校の新聞であり
同時に一人一人の爲の
次第である。(愛中)

諸子が極めて健かに
希望にみち／＼して千九
百四十九年の新春を迎
へられた事を衷心から
御祝する。昨年の諸子
は或は科學に或は藝術
に或はスポーツに極め
て輝かしい足並をもつ
て前進をつづけられ特
にスポーツに於ては鹿
兒島縣に川内高校ある
事を縣下のみならず全
國に知らしめられた眞
の頭は今年更に
一步をすすめてすべて

「完成社會」となること
を意味する。我等日本
人は兎角社會人として
は未完成だといふのは
れるが結局これは眞の
個人としての自覚が不
十分だといふ事となる
。而してこれは從來家
庭に於てこそつて來た
婦人に特に著しいと思
ふ。われらは政治經濟
等社會全般の問題に關
する認識を深め個人と
社會との關係について
正しく深い理解をもち
社會人としての個人の
責任を自覚する努力を
こそ初めて明かな社
會が生れると思ふ。
文化はすべて人類の

(二部長)